



症状は現状維持で 楽しく頑張りよう！ 決意新たに浜松で「新年会」

1月13日(木)、診療所での診察後に、うなぎ料理の『佳川』(浜松市中区船越町)において新年会を行いました。

コロナの影響でなかなか会えなかったのが、やっとみんなの顔を見らて、それぞれが安心した様子でした。「さあ～何を食べようか」とメニューを広げて、迷ったあげく、浜松と言えばやっぱり『うなぎ』と、全員うなぎに決めました。

料理が並ぶとまずは「今年も無理せず、今の症状を維持し、楽しみながら頑張りましょう！」と、お茶で「かんぱい！」しました。



食事中は黙食、食べ終わると交流の時間です。現在の分会や組合員の状況、また今後の予定などが報告され、トンネルじん肺根絶訴訟では、2月1日に全国一斉提訴が行われること、建設関係の職場だった方には4月から補償開始となることなどの報告が済むと、佐々木さんの振動障害不支給の話から、今の監督署や労働局との関係は、「闘って勝ち取ってきたもの」と、思い出話が尽きません。そして、いろんな話の行きつくところは、これまでの政治の酷さです。「やっぱり声を上げないといけない」「国民が政治家になめられているのでは?」「政治家は国民のことより、自分たちのことばかり」「だから参議院選挙では国民の命を守ってくれる人を選ぼう」など話は盛り上がり、「コロナの様子を見ながら夏頃に、また懇親会をしましょう」と約束しました。

組合員からの紹介が仲間増やしの大きな力 春の拡大月間に向けて

今年も春の拡大月間が3～5月となっています。昨年は組合員が6人亡くなり、一緒に楽しく活動をしてきた方たちとの突然のお別れは、辛く悲しいものでした。そして、分会にとっては人員減少で、運営出来ない状況に追い込まれています。

これまでも組合員のみなさんからの紹介が、組合員拡大の大きな力となってきました。一緒に働いていた方や近所の方で、特に管理区分のある方には「咳やタンは出ませんか?」と聞いてみてください。管理区分の決定を受けていても、労災申請せずに亡くなった方も多いと聞いていますですが、まだまだ労災制度を知らなかったという方もおられます。労災認定となっているみなさんが教えてあげてください。該当者があれば、分会事務所に連絡ください。粉じん職場で働き、病院で「肺に影がある」とか「アスベストばく露している」などと言われた方の相談に応じています。

療養アンケートに「療養モラルを知らない」と記入した方は、下記の療養モラル4基準をしっかりと覚えておいてください。

<療養モラル4基準>

- ①不正請求を絶対しない。事実と法令の定めに従って請求する。
- ②療養妨害をしない。
*コンバイン・トラクター作業など
- ③社会復帰の努力を行なう。主治医の指導のもとに社会復帰計画を立てる。
- ④地域で信頼される生活態度に努力する。
(煙草は禁煙)

また、「定期報告のコピーを必ず事務所に送ってください。転院した時、監督署から何らかの連絡があった時など、事務所に連絡がないと、スムーズに手続きがとれない場合があります。

事務所への連絡を忘れずお願いします。





みんなのひろば



みなさんの手作り作品を紹介



焼き絵



10年ほど前、岡崎市の矢作会館において『焼き絵を楽しむ会』が月に2回行われていて、参加していました。たくさん作った作品になかでこの絵が一番気に入っているのので、床の間に飾っています。
赤羽美津子さんより



イチゴとニャンコ（可愛くて便利な袋）

広げると袋になります。
いくつも作ってみんなにプレゼントしました。
上杉麗子さん



定期報告書を送って下さい

今の時期、年金の方を除いて、それぞれの監督署から診断書の提出を求められ、病院にお願いをされていることでしょうか。診断書が出来上がり病院から受け取ったら、コピーを2枚とっていただき、1枚は事務所に送って下さい。Faxでもいいです。確認して返事をしますので、そのあと監督署に郵送してください。

あとの手続きなどで困らないよう、やるべきことはしておきましょう！

2月の予定

- 1日 トンネルじん肺訴訟第7陣提訴
- 6日 県本部委員会
- 16日 北信越第78回執行委員会
- 23日 県本部 平和宣伝 中止

ご案内

※ 第1回分会会議は、コロナ感染拡大状況をみて開催します。

問われる 唯一の被爆国日本政府の姿勢 「核兵器のない世界」をめざす

人類史上初めて、核兵器を違法なものとする核兵器禁止条約（核兵器の製造や保有などを禁じている）が発効してから1月22日で1年を迎えました。

この1年間に同条約を批准したのは7か国増えて、59か国に達し「核兵器のない世界」を目指す流れは大きく発展しています。一方で核保有国は核兵器を維持し、それを使用する戦略にしがみついています。核戦力の増加を進め、核兵器禁止条約への敵対姿勢を強めています。

3月には第1回締約国会議が開催され、核兵器の廃絶に向けた具体的な枠組みについて議論されます。NTO（北大西洋条約機構）加盟国のノルウェー、ドイツがオブザーバー参加を表明。締約国会議で議長を務めるオーストラリア外務省のアレクサンダー・クメント軍縮局長は「核兵器の非人道的な影響を考えれば、使えるはずがありません。使えない兵器を保持し維持する意味はあるのでしょうか？そこを考える議論の場を提供するのが、禁止条約の締約国の役目だと思っています」と語っています。

米国の「核の傘」の下にあるドイツやノルウェーが締約会議のオブザーバー参加を決めるなど、核兵器廃絶に向けた国際的な大きなうねりの中で、同条約採択時からかたくなに背を向け続けてきたのが日本政府です。今こそ、世界で唯一の被爆国日本政府の姿勢が問われています。

組合員数 ☆認定組合員数 **25** 人
☆組合員総数 **26** 人

